

令和6年度 上田市立丸子中学校 自己評価シート

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)	
みずから学ぶ ともに創る たくましく生きる		○主体的に学び続ける生徒 ○仲間や先生と共働できる生徒 ○壁を乗り越えるたくましい生徒	
		今年度の重点目標	
		1	生徒が学びの深まりを実感する授業づくり
		2	安心できる学級・学年・学校づくり
		3	生徒会活動(清掃・合唱・地域貢献)・総合学習を軸とした地域との関わり

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校教育	学習指導	ねらいの提示	学習問題や課題を明示し、ねらいがわかりやすいか
		対話的な活動の充実	授業の中に話し合いや協働の場面を取り入れているか
		授業の見とどけ	ねらいの達成が振り返りや生徒の自己評価できているか
		家庭学習支援	宿題ST(スタートタイム)やノート指導による家庭学習の支援が行われているか
	指導生徒	あいさつ活動の充実	生徒会・生徒指導などが連携してあいさつ活動の充実に取り組んでいるか
		個別支援の充実	チームによる支援や外部機関との連携で個々の多様性を認める指導支援が行われているか
	教育人権	安心できる学校生活	人権教育を軸に、すべての教育活動に人権の視点を取り入れ生徒一人一人を大切にしているか
	活動特別	生徒会活動の充実	生徒会活動の3本柱を意識した生徒主体の活動が計画的に行われているか
学校運営	地域連携との	地域と関わる学校教育活動	地域素材や人材を活用した学習や、ボランティアの積極的な利用が行われているか
		適切な情報発信	学校だよりやHP等により、学校の取り組みや生徒の様子を伝えることができているか

総合評価					
本年度授業においては「学び合い」を合い言葉に授業づくり実践ウィークや、授業改善に向けての職員研修などを行った。結果職員の授業改善の意識が高まりつつあり、授業の中で生徒同士が積極的に関わる姿が昨年度より多く見られるようになった。今後も授業の中で生徒と職員が協働して課題追究や探究学習が行えるよう、本校の学びのあり方を検討していく。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
今年度は、自分の考えや気持ちなどを他者へ伝えることに重点を置いたことで、グループやペア学習の中で、多くの生徒が自分の意見を積極的に伝える姿が見られた。		○			より学習内容が深まるように、課題設定や発問などを工夫する。
不登校支援係による係会を定期的に行い、不安感や困り感のある生徒の早期発見と支援の充実に努め、昨年度より不登校生の数を減らした。		○			特別支援教育コーディネーターや、SSW、SCと積極的に情報交換・共有をしながら、より充実した支援につなげる。
地域ボランティアの方や、施設の方に文化祭への招待などを行ったことで、地域の方と一緒に地域の魅力を発信する活動が行えたり、施設の方との交流が行えたりした。	○				生徒が地域の方と協働している様子をHPや学校便りなどで積極的に発信したり、まちづくり会議の方々と連携したりしながら、より多くの方に学校と協働してもらえるような状況を作る。

成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策
黒板等に単元や1時間の授業の課題を提示することで、生徒が見通しをもって授業に取り組む様子が増えた。			○			提示する課題と生徒の実態を踏まえて、より動機付けを促す各教科の見方・考え方を意識した課題の内容を吟味する。
今年度の研究テーマと対話活動の重要性を集会等を通して生徒に伝えたり職員に周知したりしたことで、学び合う意識が高まる姿が見られた。			○			来年度は、学び合いを通しての自己理解と授業改善を進めるために、対話の深まりに焦点を当てる。
授業の振り返りについての十分な時間がとれないことがあり、生徒が次時の課題や見通しを持っていない様子が見られた。				○		振り返りの時間の確保の仕方や、効率的な手法について教職員で考え、生徒が充実感を持てるような授業になるよう改善を行う。
生徒は自学のために宿題STを活用しており、取り組み状況についても相当数の生徒が満足している様子である。家庭学習にしっかりと繋がるよう指導する。			○			宿題STの取り組みの実態を把握し、個にあった学習内容や方法を提案することで、家庭学習への意欲を喚起する。
朝の挨拶運動を、委員会の当番制にして5年目。委員だけでなく、その友達らも「協力隊」として参加が増えた。			○			「挨拶しても返してくれない人もある」という委員の困り感を委員会でも共有し、委員同士で挨拶向上策を考える機会を設ける。
生徒指導、生徒支援と合同の係会を開催した。通担、SC、SSW等とも連携して、不安感や困り感を抱える生徒に対応した。			○			より生徒が安心して学校生活を送ることができるようするために、保護者との連携強化にも努める。
人権の授業中だけでなく休み時間など、学校生活全般を通して他者との関わり方を意識する様子が見られた。			○			いじめや差別根絶のために、授業でロールプレイやワークショップを取り入れて、周囲にはたらきかけていく実践力をさらに伸ばす。
生徒会スローガンに向かって各委員会ごと工夫して活動した。収集活動を活性化し、全校参加の意識が高まった。			○			「3本柱」への意識がやや薄かった。常任や全校への意識づけをしたい。生徒総会での発言が少ない。当事者意識を高める工夫をすると共に、自薦の質問用紙に常任が一筆入れて発言をお願いするなどの工夫をする。
「地域の魅力を発信・発信する」総合的な学習の時間の取り組みにおいて、インターネットやICTを活用した広報活動により、自治体や行政との連携につなげた。		○				校内の学習発表会を、より多くの地域の方々に参観していただけるよう工夫する。
学年だよりはどの学年も二週間に1回発行、HPはほぼ毎日更新したことなどにより、地域や保護者に学校の様子を伝えた。		○				学年だよりや学校便りは確実に保護者に届くよう、メール配信やHPにあげるなど、ペーパーレスにすることを考える。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった